イムマヌエル教報

2016. 8

1947年7月1日第三種郵便物認可　2016年8月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

No.841

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

知恵の心を求めて

ブロックアドバイザー　川嶋直行

「善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください。」

（第一列王記三章9節）

主はソロモンに夢で現れ、「あなたに何を与えようか。願え。」と仰いました。ソロモンは、「善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください。」と神に願いました。この願い事は、主の御心にかない、「知恵の心と判断する心」とが与えられたばかりか、ソロモンが願わなかった富と誉れも、それに添えて与えられたのでした。

私たちは、日常の様々な場面で、事の善悪の判断を求められることがあります。会社や組織の中で、家族内で、そして教会の中でも、どう対処したらよいか苦慮することがあると思います。最初、あまり深く考えずに、軽い気持ちで判断したことが、後になって、とんでもない結果を刈り取ることになって、自分の浅はかさを悔んだことも少なくありません。

主イエス・キリストは「さばいてはいけません。」と仰いましたが、それは、自分の限られた知識や経験で、善悪をかんたんに決めつけてはいけないということでしょう。創世記の「善悪の知識の木」は、神を抜きにした自己中心な判断が「死」をもたらすことを示しています。家庭においても、教会においても、あらゆる人間関係・組織において、善悪の判断が「生（繁栄）」と「死（衰退）」を分けて行くことになるのだと思わされます。

どんなに人生経験の豊富な人でも、多くを学んだ人でも、主を仰ぎ、主に聞く謙虚な姿勢を失ってはならないと思います。ヤコブは「上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。」と述べています。「最初に訴える者は、その相手が来て彼を調べるまでは、正しく見える。」（箴言一八章17節）とありますが、仲良しや、声高の訴えだけを取り上げないような知恵が必要です。

インマヌエル綜合伝道団は、教団としてのホーリネスの実践として、ハラスメント防止に取り組んでいます。弱い立場の人の思いや意見が踏み躙られたり、逆に、同情する余り必要以上に肩を持つようなことがあってはならないと考えるからです。主から与えられる「公平、公正な判断」が、あらゆるレベルで保たれて行くとき、群れ全体の祝福に繋がって行くように思います。

主イエス・キリストの十字架の血潮によって心がきよめられ、真理の御霊である聖霊で心が満たされ、上よりの知恵によって、事の善悪を判断して行く者とさせて頂きたいと願います。折しも聖会のシーズンです。「あなたに何を与えようか。願え。」と問われる主に「知恵の心を与えてください」と祈りつつ、私たちの願いを遥かに超えて豊かに与えてくださる主に期待して、夏の聖会に出席してみてはいかがでしょうか。

目次

知恵の心を求めて……川嶋直行……1
讃美歌の充実、災害対策室、女性牧師部……2
JEF東京大会報告、厚生委員会……3
海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
南日本ブロック祈りの課題、燭台……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

Immanuel

讃美歌の充実を目ざして

教会福音讃美歌とインマヌエル讃美歌

理事長　小川宣嗣

福音讃美歌協会は聖書的福音信仰に立つ諸教団・教派・団体の協力機関として「キリスト教会における会衆賛美の振興に寄与すること」を目的に、２００５年７月18日に始まり、インマヌエルは２００８年に正式加盟しました。現在は日本同盟基督教団、日本福音キリスト教会連合（ＪＥＣＡ）、いのちのことば社、そしてインマヌエルが核となり、以来10年余、会衆賛美と讃美歌集に関する「情報収集と提供」「出版啓蒙活動」「神学的調査研究」等に取り組み続けています。２０１２年春には、長年の祈りと取り組みの集大成として「教会福音讃美歌」が出版され、現在もその祝福が各方面に広がり続けていることは感謝です。

去る６月の第11次定時総会において、理事・監事の改選がなされ、代表理事について、これまで同盟教団とＪＥＣＡから出されていたので、今度はインマヌエルからということになり、２年前から理事の末端に加えられていた小川が選出されました（インマヌエルからは、他に理事として寺村秀嗣師、讃美歌委員として蔦田直毅師、吉村和記師が加わっています）。

福音讃美歌協会の今後の活動としては、⑴現在継続されている福音讃美歌ＣＤ制作（１巻～５巻まで発行予定で現在４巻まで発行）に加えて、⑵使用上の助けとなる情報や音源の提供（教団公式ＨＰのトップページ中程から、教会福音讃美歌の情報ページに直接リンクできるようになりました！）、⑶その情報ページを充実させる一環としてのCyber Hymnal 翻訳への取り組み、⑷各地域でのセミナー開催や各種広報活動（今秋の日本伝道会議で分科会を担当）、⑸新しい讃美歌の発掘や今後を見据えて讃美歌出版のノウハウ継承のため小歌集（30曲程度、数年ごと）編纂などが予定されています。

讃美歌協会の働きを継続・発展させるために、賛助会員へのご参加（個人単位、教会単位）をお待ちしています（年会費についてはホームページをご覧ください）。

なお出版事業部では、教会福音讃美歌に採用されなかった讃美歌（聖化を主題にした曲や伝道会で歌われた曲など）を集めて、百数十曲程度の小歌集の発行を予定しています。その際、教会福音讃美歌と同じスタイルに作り変えることで、見やすく、使いやすい歌集にしたいと考えております。これに関しても、お祈りとご支援をいただければ感謝です。

災害対策委員会から

熊本地震の情報 災害対策ネットワーク

復興支援に感謝して

委員長　蔦田直毅

災害対策本部のためにお祈りをありがとうございます。ニュース・レター（５号まで）でご報告の通り、全国の教会には、お祈りとご献金にお加わりいただき、ありがとうございました。また猛暑と豪雨が続く中、ボランティア活動に加わってくださった皆さまには心から御礼申し上げます。現地対策室の國重潔志師やクラッシュ・ジャパン派遣の岩上敬人師方は、幾度も現地に行ってくださいました。先生方からは被害状況やその後の復興の詳細なレポートが寄せられています。それに基づいて、災害対策本部では今後の支援計画を立て、次の活動に備えています。

＊

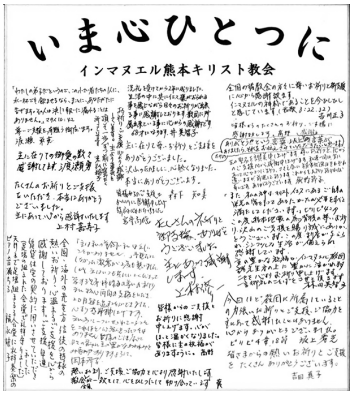
熊本の震災対策に加え、日本福音同盟（ＪＥＡ）などを通して地域や超教派の働きも進んでいます。先月末には東京地域のネットワークづくり、翌日にはＪＥＡ傘下の諸教団・諸団体の代表が集まってのセミナーも開催されました。秋の日本伝道会議でも分科会などが持たれます。こうした災害への備えと、防災意識の啓発を災害対策委員会の課題として取り上げていきたいと願っています。

インマヌエルは全都道府県に最低一教会がある反面、教会同士の距離が遠いというハンディもあります。各教会の備えに加え、地域の牧師会などの普段の交わりが大切です。

＊

このところ北海道、東北、関東と、全国各地で地震が観測されています。この機会に、防災計画や必要な備蓄など、もう一度点検をしていただきたいと思います。

左の色紙は、熊本教会の皆さまの感謝の寄せ書きです。



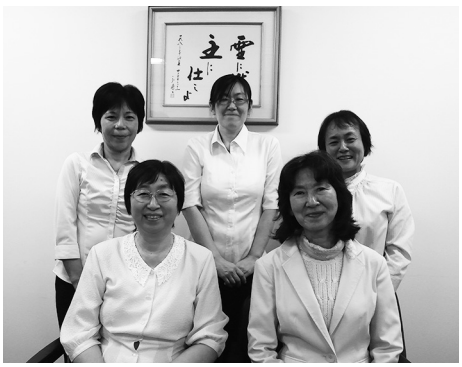
女性牧師部会 新メンバーを迎え

部長　黛　睦子

本部会のためにご助祷を感謝致します。６月21日、本部にて年一度の部会がもたれました。部員は５名（内３名が新任）です。

部会はディボーションから始まり、各部員の一言挨拶、新部員のために昨年までの部会の歩みの報告を頂きました。さらに女性牧師としてより良い奉仕を目指しての話合いを持ち、女性部の先生方のために祈りました。秋発行「女性牧師部ニュースレター」に関して打ち合わせ、祈りを持って閉会。

部のメンバーは、部長＝黛睦子、部員＝津村貴美子、野田容子、寺村真弓、古川恵子です。



ＪＥＦ東京大会報告

ホーリネス諸教団の新たな協力の出発点

＊＊＊

桂町教会　矢木良雄

２０１３年にインマヌエルは日本福音連盟（ＪＥＦ）に正式に加盟し、３年が経ちました。聖化を宣証する団体にＪＨＡがあります。ＪＨＡは個人加盟が主で、近年、教団加盟の制度が整えられました。一方、ＪＥＦは初めからホーリネス系の教団が協力して立ち上げられた団体で、教団の責任者が理事会を構成しています。現在11教団・1団体で構成されています。ＪＥＦは「聖歌」「新聖歌」の発行元としても知られています。

ＪＥＦでは毎年の総会に併せて、開催地での大会を行っています。加盟した翌年の横浜大会、昨年の徳島大会に続いて、２０１６年の東京大会はインマヌエル中目黒教会が会場教会となり、大会実行委員長の藤本満先生を中心に準備と大会運営を行いました。1年間の準備期間でしたが、加盟教団の先生方と和気あいあいのすばらしいチームワークで、楽しい共同作業を体験させていただきました。

東京大会は6月19日（日）の聖会Ⅰから始まり、二日目の20日（月）は理事会・総会、歓迎レセプション、そして夜の聖会Ⅱと続きました。三日目の21日（火）午前はセミナー、閉会礼拝というプログラムでした。全体テーマは「ホーリネス信仰と教会」、聖句はエペソ一章23節「教会はキリストのからだであり」でした。

聖会Ⅰは、日本ホーリネス教団委員長の中西雅裕先生が第二コリント一三章5～10節から語ってくださいました。説教題「悟れ、キリストが居られる」です。5節の自分自身を試し、吟味するようにとの勧告と、その前提となる「あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられる」ことを改めて探られた、鋭い説教でした。

聖会Ⅱは、基督兄弟団理事長の小平牧生先生が使徒の働き一〇章9～35節、「主よ。それはできません」の題で語ってくださいました。ペテロが「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない」と言われた箇所です。先生の体験された課題を取り上げて、自分の考えと主のみこころに齟齬が生じた場合、どう克服するのか、身につまされ、心に残る説教でした。

セミナーはナザレン神学校校長の石田学先生でした。ピレモン書から「聖なる民としての『教会』」と題して語ってくださいました。教会とは本来「対抗的構造」、つまり当時の奴隷制などの社会構造を否定するのでなく、内側から乗り越えさせる内的動機付けとエネルギーを持つものだという指摘でした。刺激的な提言でした。

今回の説教・講演を聴き、共通した認識が存在することを実感しました。それを核として新たな教団間の連携が始まる、そんな機運を感じさせられる大会でした。

日本福音連盟（JEF）

地域教会との連携を

差し迫った諸課題に手を携えて立ち向かう

教団代表　藤本　満

差し迫った課題――それは、日本福音連盟だけでなく、日本のどこの教団・教派でも同じです。牧師不足です。ホーリネス系の伝統ある教団の一つは、韓国との連携を強めて、韓国語を母国語とする牧師が現在13名奉仕しています。苦肉の策ではありません。主が開いてくださった新しい扉です。二つ三つの教会を兼牧している先生方も多くいらっしゃいました。

「教団内」で、この事態をどう乗り越えるのか？　インマヌエルとしては、たとえば、牧師が引退時期を迎えるような教会の中で「評判の良い」（使徒の働き六・3）奉仕者を確実に育てる努力が求められています。

「教団間」で、この事態にどう向き合うのでしょうか？　教団間の交わり以上に、「地域の教会間」の交わりが求められています。それにもまして、自教会の将来を自ら祈り考えていく時が来ているように思います。

待ったなしで、必ず来る問題です。祈りと知恵と勇気が必要です。

厚生委員会からの報告

引退牧師への支援と相談窓口の設置

板橋教会　寺村秀嗣

「私に親切にしてくださる方のあとについて、落ち穂を拾い集めたいのです。」（ルツ二・2）

今年度は新しい委員として、女性牧師部長の黛睦子師と信徒からは千葉教会の池田光重兄が加えられ、牧師委員12名と信徒委員5名の協働のもとで活動が行われています。六月二八日に本部会議室で今年の厚生委員会が開催されました。

全国教会からの厚生部費、厚生資金献金、上下半期献金、謝恩日献金など多くのささげ物により厚生の働きが支えられています。また細心の注意を払いつつ行われている運用益も大きな助けとなっています。引退牧師への厚生支援に加え、弔慰金の増額、牧師遺族支援や牧師治療支援にも厚生部会計が活用されるようになりました。

引退についての情報を求めておられる先生方には、信徒委員による相談窓口も設けられます。

牧師委員、信徒委員ともに上よりの知恵を求めつつ、変化していく社会状況を見極めながら、今後の厚生の働きが進められていきます。

海外トピックス

■欽定訳『聖書』を絵文字で

地球上で「最も読まれている本」の一つとして挙げられる『聖書』。その聖書を「絵文字」入りにする試みが、英語圏で始まった。

「聖書の教義を楽しく広めたい」との目的で誕生したもので『バイブル・エモジ』という。ネット世界で重宝されている絵文字は英語でもエモジと言うようだ。権威のある訳で、著作権の心配がないとなると、英語ではまず『欽定訳』と呼ばれる『ジェイムズ王訳』（KJV）。その聖書を、絵文字とネットスラングに置き換えている。

創世記の一章1節は、頭に輪をのせた笑顔、光、地球の絵文字で構成されている。それぞれ神、天、地を表している。

『バイブル・エモジ』は、製作者の正体は秘密にされている。3000ページもあるが、米国では電子ブックとして発売された。公式サイトで、聖書の1節を入力すると、絵文字に自動翻訳するシステムも公開されている。欽定訳は古すぎで、若い人のために作成するなら『世界英語聖書』（WEB）の方が良いという意見や、文字で完結している聖書本文を絵文字で表現することへの疑問も。日本語の『絵文字聖書』の登場はいつのことか。

■エルサレムの聖墳墓が修復工事に着手

エルサレムの聖墳墓教会で、「エディクラ」の保存と強化のための修復工事が6月6日始まった。

「エディクラ」は、イエスの遺体が安置されたとされる墓を取り囲む、小さな空間。修復は、1808年に火災で壊滅の危機に直面、1810年に工事が行われて以来のこと。モルタルを塗り替え、柱を強化して「エディクラ」全体を補強する。工事には8か月から1年かかると見られる。修復が大幅に遅れたのは、聖墳墓教会の所有権や管轄権をめぐってカトリック教会、アルメニア使徒教会、ギリシャ正教会の3教派間に対立があったため。

イスラエル考古庁が同教会を危険建造物と見なし、2015年、一時閉館して以来、3教派も修復を黙認せざるを得なくなり、作業に取り掛かれるようになった。修復工事費用は3百万ドル（約3億2千万円）かかるとされ、3教派が分担するという。

（平瀬聡樹）

国内教会局から

聖い教会を目ざして

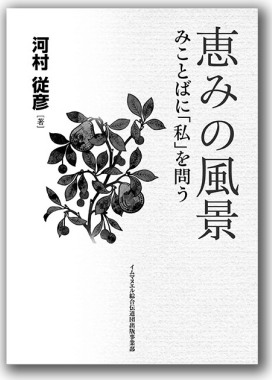
夏を活用して、信仰の刷新を！

いよいよ夏本番。児童・学生方も夏休みに入り、家族・仲間・教会での出入りが多くなる頃、普段会う機会の少ない方々とも幸いなお交わりを頂ける時期でしょう。普段とは異なる親睦はいつでも新たな恵みの管となります。新たな発想や刷新、また前に進むための気力が与えられます。そのような時はまた、私たち自身を見つめ直す好機ともなります。私は何者なのか振り返り、今私のなすべきこと、あるべき姿、これから進むべき方向を見極めるのです。地域教会として近隣の諸教会との協力が謳われる昨今、教団としても教派を越えた働きが多岐にわたって展開しています。9月末には第6回日本伝道会議も開催されます。信仰の刷新を頂き、ますます豊かなキリストのからだとなることを期待するとともに、改めて各個教会の存在意義、インマヌエルに属する使命、その枠の中で聖い教会を目指すことを確認しましょう（エペソ四・1）。（鳶田崇志）

読書のひろば

新刊書　河村従彦著
「恵みの風景」
みことばに「私」を問う

インマヌエル出版事業部刊
定価1200円（税別）



出版事業部としては久し振りの新刊書になります。聖宣神学院で院長の重責を担っておられる河村従彦先生の著述です。内容は毎月のインマヌエル教報・神学院欄の巻頭言を加筆、並べ替え、まとめていただいたものです。

藤本満先生の序文のあとに、河村先生ご自身が長い「はじめに」を書いておられます。そこに執筆の意図と、経緯が詳しく述べられています。ぜひここからお読みください。

神学院報の巻頭言とは言え、かなりの部分は先生ご自身が福音と向き合い、自らの信仰と格闘された軌跡が記されています。

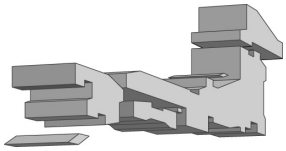
「人を生かす福音とは何か。これは、私が牧師になって数年経ち、本当の意味で自分の足で自分の信仰を生きるようになって以来、問い続けてきたテーマです。」それはサブタイトルになっている「みことばに『私』を問う」ことに他なりません。

河村先生の福音理解の根底に「出会ってくださったときに肌身で感じたイエスさま」があります。そうした実存から出た恵み理解なのです。それが先生の信仰生涯の「原風景」なのかなと思いました。同じように私たちも自らの乏しさ、欠け、弱さを日々痛感させられます。でいながら恵みの世界を味あわせていただいている、この矛盾した二つの現実の中で楽観的でいられるのは、私たちのうちにある受肉された主の臨在の確かさなのだと、改めて教えられました。

牧師として、普段の説教で恵みを語ることがいかにできていないか、表裏をなす罪の理解がいかに浅薄であるか、反省させられます。罪の本質が「恵みを受けることができない姿」であるならば、説教者が一番罪深いかもしれません。

難しいことはともかくとして、12の章に分類されたそれぞれのエッセーは、普段聞くのとはちょっと違った切り口で福音が語られています。それらを読みながら、自分ならどう受け取るか、自らの心で恵みを捉え直してみることもまた幸いです。（矢木良雄）

国内教会局スクエア



南日本ブロックの近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー　岩上祝仁

いつも南日本ブロックのために全国の聖徒の皆様にお祈りいただいておりますことを心から感謝申し上げます。簡単な報告になりますが、どうぞ諸教会と先生方を覚えて引き続き祈りの手を挙げていただければと思います。特に祈りの課題のある教会をあげましたが、祈りのネットワークにありますように、すべての教区と教会・先生方のためにお祈りいただけましたなら感謝です。

四国教区――今年4月に徳島教会に高橋みづほ先生が赴任されました。新しい出発が祝されるようにお祈りください。高知教会では昨年、駐車場用の土地が取得されました。感謝。香川教会と今治教会は単身女子の先生によって、厳しい伝道の働きが継続しています。どうぞ結実が与えられますように。松山教会では、青年の働きが長年継続し、特に大学生伝道に取り組んでこられました。若い方々が集い、育つ教会となって行きますように。お祈りいただいています休養中の柏木あゆみ先生は手術と治療が用いられ、回復されつつあります。先生は来年度の復帰を願っておられます。

北九州教区――別府教会では熊本大震災（北部九州大震災）において、別府教会の教会員の家屋にも被害が出ています。復興のためにお祈り下さい。北九州教会では松村伊作先生が千恵子先生を天に送られた後、お一人で伝道牧会に当たっておられます。長崎教会の坂田秀孝先生も健康の戦いを覚えつつ、伝道牧会に励んでおられます。福岡教会では会堂の大規模補修工事を行う予定にしています。教会が一つとなって前進できるようにお覚えください。

南九州教区――熊本大地震の被害を受けました熊本教会。お祈りと支援によって、教会は速やかに修繕が終わりました。被害に遭われた教会員には、仮設住宅に入居し、これから復興にとりかかる方々もいらっしゃいます。引き続き熊本の地を覚えてお祈りください。末弘先生ご夫妻、先生のためにもお祈りください。姶良教会の前田修二先生は健康的な戦いを覚えつつ、ご奉仕を継続しておられます。現在、姶良地区は九州で二番目に人口増加率の高い地域になっています。宮崎教会の高梨恂子先生も三浦綾子読書会などにも取り組みながら地域に根ざした伝道と働きを取り組んでおられます。また鹿屋教会、指宿教会では単身女子の先生（前田政子先生・坂詰先生）が地域の教会で真実なご奉仕を続けておられます。

8月16日（火）～18日（木）九州聖会が朝比奈悦也師を迎えて、阿蘇において開催されます。地震や土砂災害で交通が不便な中ですが、無事に開催されますようにお祈りください。

沖縄教区――那覇教会は開拓からご奉仕をされて来られた金城先生が協力牧師となられ、今井先生が主任牧師となられました。今後の那覇教会の働きが祝されますように。糸満教会の大山先生東風平教会の中村先生ご夫妻も支えられてご奉仕を継続しています。11月に藤本満先生を迎えて沖縄聖会が行われます。代表を迎えての聖会が祝され、沖縄の愛兄姉方が恵みに育つ時、霊的刷新の時となりますように。

南日本ブロックの諸教会のために、お祈りをよろしくお願いします。

燭台

信仰生涯の出発点

■「君に会えたら嬉しいネ」とのメモが添えられ、約三十ページにわたる詳細な講義資料が届きました。教派を超えて東北各地で労している牧師たちの研修会が岩手県で開催され、今回、その講師として来県された先生からのものでした。四八年前、私はその先生の導きでクリスチャンとなりました。いまは教団本部の置かれているOCCビルですが、当時はOSCC（お茶の水学生キリスト教会館）と呼ばれていました。その一階にあったチャペルで、私は神の愛と出会い、キリストの十字架に出会いました。そこで初めて祈りました。その全ての場面に当時チャペレンをしておられたその先生がいらっしゃいました。■「君たちがよい教会に導かれるように」と、お話しをされ、その先生から初めて「インマヌエル」という名前を聞きました。「聖潔の信仰」が話題となった時、「その問題は、ボクに聞いちゃだめだ。それは君の属した教会の先生に、徹底的に聞いてごらん。」と、指導してくださいました。私は、本当にすばらしい先生に恵まれたのだと、いまになってよくわかる気がします。ある時、その先生は、「ボクの関わった連中、どういうわけか、みんなホーリネス系に行っちゃうんだよナ……。」と、苦笑しておられました。■今年八三歳になる先生は、数年前までナナハンを乗り回していました。今回は改造オート三輪車で東北自動車道を突っ走るつもりで自動車工場で点検してもらったところ、シャフトに不具合が見つかり、絶対高速を走ってはいけない、とのダメ出しをされ、仕方なくJRで来たのだと言います。■先生とは何十年ぶりの再会でした。受付で手続きをしている時、「君。来てくれたね。」と、がっちり握手。そして「ボクが暴走しそうになったら、ブレーキ役を頼むネ」。私も、笑いながら「承知しましたッ」と応じました。先生らしい講義の語調は、四八年前と少しも変わっていませんでした。もしも変わったとすれば、私がブレーキを踏ませて頂くような機会はまったくなかったことです。日本宣教の現状に燃える重荷をもっておられ、涙ながらに祈られる先生との交わりに、もう一度信仰の原点を確認する恵みを頂きました。

（イザヤ五一・1）　（国光勝美）

広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

巻頭言

弟子作りを目指して

世界宣教局長
梅田 登志枝

「あなたがたは出て行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」（マタイ二八章19節）

6月にウェスレアン教会の第13次総会に出席しました。北米ウェスレアン教会の礼拝出席者数は24万人ほどで成長しています。しかし、都市部における経済格差、移民の問題など新しい課題にも直面しています。総会で選ばれたシュミット新総理は就任スピーチで「アメリカは宣教地である」と語られたことが心に残ります。なぜなら、宣教師を送り続けてきたアメリカに、今は宣教師が送られ始める時代を迎えたからです。それを踏まえ、二つのことが言及されました。

一つは、「祈りの実践」です。教会で、個人で、家庭で祈ること。主の働きは祈りによって進んでいくことを再確認して、祈りの時間を多く持つことが強調されました。祈りの場に集いながら、噂話や陰口などに時間を費やしていることはないか、と警戒も投げかけられました。

もう一つは、「弟子作り」です。キリストは、昇天前に弟子に冒頭のみことばをお命じになりました。弟子の使命は、次の弟子を生み出すことです。時間のかかる使命ですが、これは学びやテクニックだけではできません。弟子訓練の学びを積み重ねることが、単に批判の材料にしかならないこともあり得ます。これはまさに聖霊に満たされた人々による、聖霊のお働きなのだ、と語られました。

宣教地においても、様々な取り組みがなされていますが、目指すべきところは、主の弟子を作ることではないでしょうか。そして、この宣教の働きを推し進めるのは祈りによって働かれる聖霊の働き以外にはありません。

この夏も主の弟子たちが聖霊に満たされて、主が命じられた次の弟子作りの働きに専念することを切に祈り、願うものです。

ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子＊2016年7月2日

ザンビアに来てから一か月が経ちました。ザンビアは南半球にあるので日本とは逆の季節で、6月は朝晩冷え、日本で言うと秋のような季節です。3月に雨季が終わり、現在は乾燥が強いです。計画的な断水は毎日あります。電気は工事のために12時間以上来ない日もありましたが、今は（8月11日の大統領選挙前であるためか）ほぼ毎日来ています。最近は宣教師館建設に追われる日々です。連日ジェンボに出る必要があり、移動が頻繁に行われます。大使館から、武装グループによる銃の事件が私たちのいる南部地方で最近多発していると知らせが届きました。以前よりも銃による犯罪が増えてきています。被害は外国人、現地人の区別なく出ているようで、中には命を落とした方もあります。移動が多い中ですが、事件や事故から守られていることは本当に主の憐れみです。できるだけ早く拠点をジンバからジェンボに移したいのですが、様々な理由により、思いのほか時間がかかっています。7月中に移動を開始し、8月にはジンバの住居を明け渡して、ジェンボに移れればと願っています。

建設の方はゆっくりではありますが、着実に進んでいます。6月は水確保のために井戸掘とポンプの設置が終わりました。井戸掘は依頼する会社を慎重に選びました。当日は、日本人で井戸掘に精通している方が立ち会ってくださいました。井戸会社の担当者にさまざまな指摘をしてくださり、工事が進められました。色々な面で意見が食い違ったりして、難しさを感じる時もありました。井戸掘の知識が乏しい私たちに代わり、このように必要な助けが与えられたことは感謝でした。知識を持って作業に立ち会ってくださり、日本のような正確さとまでは行きませんが、無事に井戸が掘られ、水が確保できる環境になったことは感謝でした。内装の工事も同時進行で始まっています。キッチンの棚などをやってくださった方がとても誠実に丁寧に作業を行ってくださり、励まされました。

富澤宣教師とも祈祷会を再開しました。共に祈り励まし合える存在が与えられていることは本当に感謝なことです。

ジンバで正面衝突の交通事故があり、日本人2名が被害に遭いました。私たちは二人を病院に搬送するお手伝いをしました。快復のためにお祈りください。■

ZAMBIA

ザンビア

富澤　香＊2016年7月4日

根廻宣教師をお迎えして一か月ですのに、もう数か月も過ごしているくらいに感じます。私自身も帰国してから4か月ですのに、もう何年もいるような感じで驚いています。そのような中で背後にある皆様のお祈りによって、支えられ守られているのを実感しています。また根廻宣教師と二人での祈り会を再開できて感謝です。

宣教師館プロジェクトでは窓ガラスを買いジェンボまで運びましたが、割れずに運ぶことができて感謝でした。また電気の配線について電気会社の方と具体的に話す機会を持って申請書の提出にこぎつけました。それから、大きな土地が与えられているのは感謝なのですが、その整地が大変です。そんな中、ジンバ病院の友人が草刈りを助けてくれて、少し見通しが良くなり具体的になってきました。それでもまだまだ整地していくには大変です。柵を建てるためにもまたコンテナを置くにも、もっと均して平らにしなければなりません。様々な細かいところも丁寧にしていかなければいけないと思っています。

前から交通事故が多いと感じていましたが、最近さらに交通事故が多く見られます。出入りの多い私たちもどんなに守られているかを思わされています。これまであまり患者さんに携わる機会がなかった私にとっては、患者さんに直接関われることの喜びを取り戻した感じがしました。もちろん事故を喜んでいるのではありませんが。またザンビアの医療、看護のレベルの低さは、これまでも知らされ、見せられていましたが、確実に違うという面も見せられ悲しい思いがいたしました。ザンビアの医療のためにもお祈りを頂きたいと思います。

医療宣教師を志す方を、主が起こしてくださいますようにと祈ります。■

KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2016年7月2日

アメリカ人医師免許のため、お祈りくださり感謝いたします。延期されていた会合が開かれ、予定より多く要人が出席され、拒絶でなく、前向きに検討するという反応とのこと、感謝です。今後は個別に検討するそうですので、来年初めに再赴任を予定しておられる救急医、ケリー宣教師ご一家のため続けてお祈りをよろしくお願いいたします。

聖霊強調週間（聖会週）では、御言と率直なお証しから「いと近き助け」「イエス様の助手」「疲れ切ったザカリア」「主は信頼できる」「名を挙げるためのバベルの塔対名を挙げて下さる主、建て上げて下さる主」等と題をつけられそうなメッセージを朝夕、また部署毎に与えられた日中のディボーションの中で語られ、感謝でした。この週後半に大変難しい事態が起き、怒ったらよいのか泣いたらよいのか、分からないまま、主を信頼し、欠けだらけの者たちからチームを建て上げて下さることを祈るのみでしたが、本当に鮮やかな解決が与えられ、ただただ感謝です。背後のお祈りと、丁度良い時に講師を送って語って下さった主に感謝いたします。

ある日突然郵便局から「3月から引き取られていない小包がある。延滞料金を速やかに払わなければ返送する」と連絡がありました。通常は、小包到着を知らせる黄色い紙が届き、一週間以内に引き取らないと、延滞料金を警告する紙が届くものなのですが、どちらもないままの突然の連絡で、延滞料金は数年前でも一日60シリング位、3月からだと相当な額になります。郵便局が閉まる前に担当者に電話を掛け、月曜日に休みを頂いて郵便局に出向くことになりました。そのため、日曜午後の宣教師の祈祷会で祈って頂けたのは感謝でした。担当者と話しながら心の中で祈り続けていましたが、これも思った以上の解決が与えられ感謝でした。

短い予告期間で1日だけの心臓外科手術が隣国の看護師さんのために計画され、準備不足の中、また予定より1日延期されての執刀でしたが、術後の容態も順調で感謝です。7月はカテーテルを使った心臓手術のチームが到着予定です。必要なレントゲンの連続撮影用の機械が壊れてしまいましたが、この点においても、主のみ助けがありますよう、お祈りをよろしくお願いいたします。■

BOLIVIA

ボリビア

三森邦夫・加寿子＊2016年7月4日

私たちのボリビアでの働きもあとわずかになりました。しかし実際には今年に入って締めくくりが進むにつれて、求道者や、熱狂主義の教会の教えに混乱して、教会に行けなくなった人などを紹介されるケースが多く、一層忙しさが増しています。残していく働きの大切さを実感しながら、それを受け継いでくれるリーダー・トレーニングになお力を注いでいく必要を感じています。今問題になっている熱狂主義の風に吹きまくられている南米の中で、ボリビア人の手で、「聖書的なキリストの教会を」とのヴィジョンをもって、この働きが受け継がれていかれたら幸いだと思っています。

去年の10月から始まったリーダー・トレーニングコース、第一レベルは6月18日に終了しました。出席日数、これまでの試験の点数などから、第一レベルに合格するかどうかが決まりますが、二人の他教会からの兄弟が途中でや

めた以外、最終的には10人の兄姉が残り、第二レベルに進むことになりました。修了証書なども作り、これから教会を建てあげていくためにも、神に仕え、神第一の生活をするという契約書にもサインしてもらいました。7ヵ月間、みんなよく頑張ったと思います。南米の人たちは、楽天的で規律や約束を守ることが大苦手の国民性があります。私たちが、集会を始めたころ、集会時間を守る人はほとんどいませんでした。30分遅れて始まるのが普通でした。しかし、このように7か月も、毎週土曜日3時間の集中講義に出続けたということは、非常に大きな変化で、大いに励まされました。

6月、3日間キリスト教の大集会がありました。説教者は、マイアミの牧師、ギレルモ・マルドナドでした。首都ラ・パス、サンタクルス市、コチャバンバ市の三大都市で、癒しと悪霊追い出しの集会を開き、サンタクルスでは、カトリック、プロテスタント合わせて30万人以上が集まったと聞いています。市内のホテルでの集会では、入場料が一人百ドルだったそうです。6千人集まり大盛況だったとか。癒し、悪霊からの解放、裕福になることなどがその強調点で、「繁栄の神学」が根底に流れています。ボリビアの大部分の教会は、この影響を受けるようになっています。ボリビアの教会の将来を危惧しながら、締めくくりの時を過ごしております。■

PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子＊2016年7月6日

新学期が始まりました。常喜は「ウェスレー神学」と「ダニエル書・黙示録（黙示文学）」を四年生に教えています。ロザリスから離れて3年が経ち、4年生とは初対面ということもあり授業の中でお互いを観察しながら、学びに勤しんでいます。クラスの形態は、半分が講義で、あとは学生たちの発表となっています。ウェスレー神学では、学生たちに一人ずつ異なる「ウェスレーの説教」を選んで、読んでもらい、発表してもらっています。「ダニエル書・黙示録」では、聖書学的な視点から学生たちがこれらの書物を読めるようにクラスを進めています。クラスの準備をしながら個人的にもたくさんの恵みを頂いていますが、学生たちにもクラスを通して恵みに触れてもらいたいと願っています。月末にはチャペルで説教の奉仕をしました。久し振りで緊張しましたが、学生たちは一所懸命に耳を傾けてくれました。

実和子と希乃実はウェスレアン聖書大学に併設されている幼稚園と小学校にそれぞれ通い始めました。英語での読み書きに遅れはありますが、そのようなことも気にせずに毎日登校しています。小学校では、国語（フィリピノ語）の他に、母語（イロカノ語）のクラスがあり、担任の先生はこれらの科目のために希乃実に家庭教師を付けるように私たちに依頼してきました。そのため、希乃実はほとんど毎日家庭教師を引き受けてくださったレベッカ・プゴガン先生のところに通って、これらの科目克服のために頑張っています。

インマヌエル宣教師館がロザリスに建設されたのは一九八六年七月のことです。それから30年が経つこととなります。この宣教師館を通しても宣教の働きが継続されてきたことは神様の恵みであることを、ここに住み始めてから日々実感させられています。■

■会計報告6月分

宣教献金　一、五五二、〇〇七円
月平均　一、五三四、七九〇円

お祈りの課題

フィリピン（豊田）
◆学生と先生方のため。常喜は「ダニエル書・黙示録」「ウェスレー神学」を教えています
◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。希乃実は校内にある小学校、実和子も校内にある幼稚園に通っています
◆聖書大学（ロザリス／セブ／パラワン／シニプシップ／カバカン）の必要が満たされるように

ボリビア（三森）
◆リーダー・トレーニングのレベル2が始まります。受講者たちのため
◆熱狂主義から、ボリビアの教会、南米の教会が守られますように
◆私たちの霊肉の健康と締めくくりのために

ザンビア（根廻）
◆移動が多いため事件事故から守られるように
◆必要な助け手が、その時に応じて与えられるように

ザンビア（富澤）
◆ザンビアの医療の向上のため
◆プロジェクトが速やかに進められますように
◆霊肉が支えられますように

カンボジア（蔦田緑乃）
◆KCCの全伝道者の霊的刷新とその働きのため
◆女性伝道者のための霊的修養会のため
◆全伝道者が仕事をしながら教会建設にあたっております。彼らの霊性が保たれ救霊に心を尽くす働き人となりますように
◆蔦田の健康の改善のため

ケニア（蔦田就子）
◆心臓カテーテル週の祝福のため
◆正しい福音の伝達のために病院が用いられるように

香港（鹿島）
◆一人ひとりの霊的成長と新来会者が加えられますように
◆牧師夫妻の健康が守られ、7月10日以降の香港と広州を往復する生活が支えられますように
◆香港と近隣地域で邦人伝道の働きが広げられますように

台湾（平瀬）
◆救われる方が起こされるように
◆宣教地訪問団が参加者と教会、受け入れる教会の双方にとって恵みの時となりますように
◆台湾の政治や経済、治安の安定のために。新総統・蔡英文政権の安定のために

東京國際教会（蔦田康毅・由理）
◆8月11～13日の夏の修養会（講師：黄子嘉牧師、岩上敬人牧師）が祝されるように
◆8月22～26日まで台北で持たれる世界華人福音会議のために（蔦田も出席予定）
◆10月15日にもたれる3つの特別伝道会の結実のために（中国語＝諸牧師、日本語＝姫井牧師、児童＝蔦田牧師）

聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

現場度数～ホーリネスの品格

院長●河村 従彦

「しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために」（ルカ四・18～19）

イエスさまの目線は、組織でも箱物でもなく、困難の中にある一人ひとりに向けられていました。目線が人に向くと、それは自然と現場目線になります。奉仕の現場で、自分の目線は結局どこに向いているのだろう。そのことでどれだけイエスさま的かがわかるような気がしました。現場度数です。

人を見る目線の背景には、一つはローマによる圧政のもとで人が困難を覚えていることがあったと思いますが、さらに、人を慰めるはずの宗教が、重い荷物を肩に載せるだけのものになっていたという現実もありそうです。奉仕の現場で、信仰的なお助けをするのはとても難しいことです。一線を越えると、パリサイ人のやり方とどうしてもかぶることになります。

問題は「人を自由にする」という福音の本質にあるのでしょう。19節の「恵み」ということばには、「受け入れられる」という含みがあります。人がそのまま受け入れられるのが福音です。イエスさまの奉仕もそのようなものでした。ですから、相手に自由を与えるものだったのだろうと思います。かりにそれが正論であっても、人をコントロールして自分のイメージのようにしてしまわないという大前提があるように感じます。

現場度数とは、相手の方の心の鼓動、生身で生きている現実、その中でも精いっぱいやっている真実さをこちらが感じ取る感性です。そこには、人が指図して人を動かすことなど到底できない、一人の人が生きている重さがあります。そしてその重さは、自分の人生と同じくらい重いのです。

わたしたちが信じているホーリネスの品格は、やろうとすると実際は難しいのですが、人のありようを尊重しようとする現場度数によってはかられるような気がします。イエスさまの現場度数は、その意味で最大なのでしょう。

シオンの先生方の奉仕団、ありがとうございました

神学エッセー

パウロ研究の最新事情
「新しい視点」から２

岩上敬人

パウロ研究をめぐる新しい視点は、宗教改革以降の神学の枠組みにも大きな影響を与えることは自明のことでした。まずE・P・サンダースの研究によって、クリスチャンと教会が数百年にわたって保持していたユダヤ教に対する誤解が解かれたのです。ユダヤ人は、律法を行うことで、救われ、神の前に義と認められることを追求していた訳ではなかったのです。そのような考え方は旧約聖書にも、第二神殿期のユダヤ教文書に見ることはできないのです。パウロが否定した「行いによる義認」を私たちが誤解していたなら、パウロが意味した信仰義認とは何だったのでしょうか。このような疑問が当然出てくるわけです。こうして、新約聖書学、特にパウロ研究の分野は信仰義認の再解釈を迫られました。

この問題に取り組んだ一人は、前回紹介したダラム大学のジェームズ・ダンでした。ダンはこれまでのパウロ神学の枠組みを尊重しつつ、信仰義認の意味を問い直しました。そして次のような結論を導き出しました。(1)パウロの義の概念は旧約聖書の神の義の概念に基づいていること、(2)イスラエルが神の前に正しく立つことができるのは神の側からの救い、恵みにのみよる。この思想がイスラエルの自己認識の根底にあり、契約神学の土台である。(3)この契約神学の思想は、パウロの義認の概念に流れている。この三点から、パウロの義認の中心は司法的概念（神の無罪判決）よりむしろ神の契約関係における真実さと愛である。それゆえ「神の義」は「福音（キリストにある神の救いの業）」と同義であり、義認とは、罪人がキリストによる贖いのゆえに、神との契約関係に回復されることを意味していると考えたのです。

これまで義認の中心にあったのは、神との法的関係でした。義認は、法廷における無罪判決と同等にみられていました。だからこそ、罪の赦しが義認の中核にあったわけです。ところが、「新しい視点」によって、義認の中心は、神との法的関係から、契約関係にシフトすることになったのです。従来の信仰義認を支持する神学者、聖書学者はこのような考え方は、危険であるとさえ考えました。そして伝統的なプロテスタント神学を破壊する脅威と受け止める人もいたのです。これはとても残念なことでした。

◆神学院の学びの中で

鹿のように

短期コース　高木暁子（さとこ）

前期の学びがまもなく終了しようという時に、チャペルの順番が回ってきました。丁度その頃心に通ってきた聖言は、詩篇の四二篇で、鹿の慕いあえぐ姿は、まさに自分自身である事に気付かされ深く心探られる日々でした。

学べば学ぶほど自分自身の弱さと向き合うことになり本当に悩み始めていた時に、祈る中で、ハアハアと慕いあえぐ鹿の情景が思い浮かび、「これはいけない。このままではいけない。休息を、魂の休息を求めたい」と示されるまま静まる時をとりました。それと同時に身体の休息も必要だったことを実感しました。

「わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。私の前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを」（5、11節）。主は憐れみ深くこの度も聖言をもって、私を力強く励まして下さいました。

常に主を見上げる事を教えられ望んでいる者でありながら、本当に些細なきっかけでその恵みを見失いそうになるほど人間は弱いという事、神様に期待をおくという信仰に立つ事以外に一歩も進めないことを改めて教えられました。

そのような思い巡らしの頃、内山先生によるリトリート祈り会が持たれました。昔で言う合同祈祷会です。そこでは、心いっぱい賛美し心から注ぎだして祈り、皆の祈りに心からアーメンと和す恵みの機会でした。そしてBTCのためにどれほど多くのサポートとお祈りが積まれているかを教えられ主の前に襟を正す思いがしました。鹿が慕いあえぐように渇きを満たして下さる主にお委ねして、これから迎える夏期実習や様々の奉仕をも生ける神を見上げて主よりの平安に包まれて、自分らしく誠実にさせて頂きたいと心から願う者です。

◆神学院の学びの中で

主に導かれて

聴講生　額田　昭

神学院の出入りの度に「西八朔の森で奉仕の生涯の備えを」と書かれた看板が目に入ります。これは歳を重ねた者にとっては挑戦であり、また、励ましです。主から「これからのことにつき、主の潮に任せてはどうですか！」との促しに従い「学びと訓練」のスタートをし、恵みと感謝のうちに前期の締め括りができました。

神学院では2009年から信徒伝道者養成スクーリングで短期間の学びをしてきましたので、場慣れはしておりましたが、神学生としては全く異なった印象を持ちました。それは、生涯を主に捧げるために「学びと訓練」を受けておられる神学生と、その指導に心血を注がれておられる先生方へ、畏敬の念を持ったということです。

履修科目は、体力的な事情から僅かなものでしたが、大変充実したものであり、今までの学び（大学や企業での養成訓練）とは本質的に異なったものでした。特に「神と人間の関係」についての学びは感動的であり、長年の疑問に的確な回答が与えられました。これは主に任せたことによる恵みに他なりません。

シオンの先生方とのお交わり

図書館も力強い味方です。神学院ならでの蔵書を目の当たりにして、豊かな体力を与えてください、と主に祈りました。

大きな男子寮に一人で寝起きしております。この生活の中で、神様から良き語り掛けをいただけることは、格別の恵みの時です。

歳を重ねた神学生の「学びと訓練」のために背後のお祈りとご支援を、身に余る恵みと感謝しております。冒頭の看板の「～生涯の備えを」は、「～残り少ない生涯の備えを」と読み替えなければなりませんが、健康管理に配意し、また、前期の学習効果を基に、神学院での恵みの期間を過ごしたいと思います。

◆神学院の学びの中で

霊的な恵みの世界

正規コース　松尾信子

前期の学びを締め括るまで守られていることを心から感謝いたします。本当に時が経つのは早いと実感しつつ、夏期実習を前にして、備えの中で過ごしています。

霊的な恵みの世界を味わえるのが神学院ですが、自分自身が、まだまだこの恵みの世界に開かれていないことを思います。学びの中では、聖書の文脈的な読み方を通して、聖書全体が何を伝えようとしているのかを、まず理解するようにと、これまで多くの書簡から読み方を教えて頂きました。そして、それは、自分が何者かを知る自己洞察につながり、恵みの世界に開かれていくことを教えて頂きました。また、自己洞察は、生涯をかけて続けていく営みであることも教えて頂きました。自分自身を省みる時、もはや神さまの前に明け渡された状態であるはずなのに、日常の色々な出来事を通して、手放さない自分を発見することがあります。神さまは、私の弱さを知った上で、その道ではない、主の道を示して下さいます。時に、それは私にとっては、困難な道で、とても辛いと思うことがあります。恵みの世界であると、頭では分かっていますが、心にまで届いていないことを思います。ですが、神さまは、忍耐強く、小さい者の歩みを助け、教え、導き続けて下さっています。また、力強い祈りの支えによって守られている事も思います。

キリストの証人になる道は、この世にあってはとても厳しい道であります。ですが天的にとらえると、聖なる道、恵みの道、天国に続く道であることを覚えます。この霊的な恵みの世界に目が開かれて、召して下さった神さまに委ねて、進ませて頂きたいと願います。

「そこに大路があり、その道は聖なる道と呼ばれる。」（イザヤ書三五・8）

私の神学生時代

二人のハンス

8期生●野田　秀

「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。」
（第一コリント一五章10節）

右も左もわきまえていなかった者が、神学生の一人として迎えて頂いたのは、もう六十年も前のことになります。ここでは、その時代に前後してふれた書物で出会った〝二人のハンス〟について書きたいと思います。

＊

▽一人は、ヘルマン・ヘッセの小説「車輪の下」（岩波文庫）の主人公です。

希望に燃えて神学校に入学したハンスでしたが、次第に大人の論理や理不尽さに押しつぶされそうになり、ついにそこから逃げ出してしまいます。十五歳のナイーブな少年には耐えられない現実があったわけですが、これはヘッセ自身の体験であろうと言われています。

「車輪の下」とは、今でいうプレッシャーのことです。救われて間もない、信仰の下地の乏しい神学生であった私も、それまで生きて来た世界とは別世界の学院に驚き、周囲の神学生の人々と自分を比べて劣等感を持ち、やって行けるだろうかと不安になり、しかも表面はそうではないかのように振る舞っていました。ハンスに近いものを持ちながらも、そのプレッシャーから逃げ出さずにおれたのは、主のあわれみと多くの方々のお祈りがあったからに違いありません。

▽もう一人は、「ドイツ戦没学生の手紙」（岩波新書）にその名を連ねているハンスです。第一次世界大戦の折に、戦場に駆り出されて戦死した彼は、両親に手紙を遺しています。

「一九一六年六月一日――愛するご両親様。僕は腹部銃創を受けて戦場に倒れています。死ぬに違いないと思います。天に帰る準備をする暇がまだ少しあるのを喜んでいます。愛するご両親様。有難うございました。ご機嫌よく。ハンス」

今からちょうど百年前のこの日、ハンスは二十四歳でした。

＊

二十四歳といえば、私が神学生になった年齢です。死を覚悟し、親に感謝し、天に帰る準備をする喜びを証ししたこのハンスのことばは、献身した自分に与えられている使命や責任について考えさせてくれました。それは、今も変わりなく私のたましいに息づいています。

同窓生の近況

38 期生

堺教会●蔦田聡毅

武道館で「ゴスペル90」というクルセードが卒業した年の大仕事、母教会・主都中央教会で1年副牧の後、台湾で6年、今の堺教会で20年になり、自分の人生で最も長く住む場所となりました。台湾で生まれた長男は既に就職で巣立ち、堺で生まれた次男は高2になりました。赴任以来7年間で4回の引越があり、その都度教区の先生方から「引越のサカイ」と言われつつも温かい応援を頂いて、4箇所目で今の会堂が与えられました。

堺の中でも「だんじり祭の街・鳳」と自称する土地柄、伝統的な柵が濃い場所ですが、3年前に中学校のPTA会長をするまでは、その柵すら分からぬまま、何と上滑りな伝道をしていたか、と反省し、この土地、その教会に対し、取組み直している所です。

教団内外、関西の超教派でも青年宣教に携わらせて頂く事が多く、スポーツミニストリーの働きにも関わり、地元の方々や他教会とも良い関係を築きつつ、良い土壌作りと福音の種蒔きに勤しんでいる、ここ数年です。

神学院スタッフ…恵みの想起

読む・書くことの大切さ

図書館司書　三森春生

今では滅多に見られない謄写版印刷機は、以前は一般によく普及していた。小学生時代に学校で遠足のガイドを作り、中学生の頃は父の仕事の手伝いに、信仰に入ってからは教会で青年会報を作るなどガリ版印刷の経験は長かった。

本格的な印刷との出会いは神学院入学後『教会学校』誌編集を命じられ、毎月印刷所との往復・交渉が始まってからで、編集実務もその時からだった。教団出版部で初めての自主出版として蔦田師の『聖潔の生涯』の刊行が企画され、販売の仕事も伴った書籍出版の初体験をした。

図書館の働きとの関わりについては前述したので省略するが、その延長上で「文書館」の働きが今後の課題ではないかと考えている。了

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、6月の会計報告をさせて頂きます。

6月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥870,165
教会団体による「神学院献金」
￥667,743
合計￥1,537,908

その他の献金（一時・特別）
￥789,670

・振替：00230-0-10138

学苑だより

●先月はシオンの先生方を奉仕団としてお迎えし、幸いなお交わりをいただきました。感謝致します。

●BTC後援会・発起人会の第一回会合が行われました。推進委員会の構成、今後の日程などについて話し合われました。お祈りのために、主旨（案）をお示し致します。

◆主旨（案）「イムマヌエル聖宣神学院後援会は、教会と時代に仕える奉仕者を養成・輩出する聖宣神学院支援のための信徒運動として、⑴情報提供等による教会への貢献、⑵祈り・経済を含む教会からの支援の双方向を視野に、教会およびサポーターと神学院の信仰的連携をより緊密なものにし、本会の祈りと働きを通して、神学院が安定的かつ発展的に運営され、そのことによって福音の恵みの拡大に資することを目的とする」。

今後さらに検討して行きます。

●神学院祈り会は9日（火）です。

公報

本部通達

「恐れるな。わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだエシュルンよ。わたしは潤いのない地に水を注ぎ、かわいた地に豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたのすえに、わたしの祝福をあなたの子孫に注ごう。彼らは、流れのほとりの柳の木のように、青草の間に芽ばえる。」（イザヤ四四・2～4）

今年は、すでに猛暑や豪雨に見舞われることも多いなかで、夏の営みに入りました。次段にまとめられていますように8月には各地で夏期聖会が開催されます。また今夏は特に、若い方々を対象にした全国中高生とにキャンとユースステーション全国大会が開催されます。各教会でも、夏のキャンプなど、特別な営みが祈りつつ進められて行くことでしょう。

夏のすべての営みに大いなる祝福が注がれ、参加する一人ひとりが聖霊によって心潤され、豊かな流れが周囲にわき出でる機会となりますようにお祈り致します。

■本　部

▽8月15日（月）～19日（金）の週は夏期休業期間となり、本部や出版事業部関係の業務はお休みとなりますのでご了解ください。

▽事務処理を円滑にするため、月報送付の際、表書きに「月報在中」と記してください。

■国内教会局

〈教区会〉

9日（火）～10日（水）

北海道教区

《8月に開催される各地域聖会開催情報》（開催日程順）

◇四国聖会

2日（火）～4日（木）

講師・田辺寿雄師・岩上祝仁師

会場・セントラルホテル鴨島

◇林間聖会

4日（木）～5日（金）

講師・梅田登志枝師

会場・OCCビル

◇ポプラ聖会（北海道教区）

10日（水）～11日（木）

講師・岩上輝雄師

会場・札幌教会

◇九州聖会

16日（火）～18日（木）

講師・朝比奈悦也師

会場・阿蘇の司ビラパークホテル

▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。

■世界宣教局

▽ザンビアでは宣教師館の建設が完成を目指して、着々と進んでいます。トラブルなく完成を見ることができるように、建設に関わっている富澤、根廻両宣教師の霊肉のためにお祈りください。

▽カンボジアで奉仕中の蔦田緑乃宣教師は健康も支えられ、牧師夫人の研修会の時を持ち、月末には帰国の予定です。

▽三森邦夫、加寿子宣教師はボリビアでの働きを終えて、来月帰国予定です。10月から来年年会前まで巡回報告に当たります。巡回を希望される教会は、神栖教会鳶田敬子師まで、ご連絡ください。

《IWF関係》

▽宣教師の紹介のパンフレットが全国の教会に送られました。宣教師のためにお祈りくださるとともに積極的にお招きください。経済的に困難な場合の経済的な支援に関しては、委員の梅田登志枝師にお問い合わせください。

▽モッツ宣教師一家は、来月の赴任に向けて、準備に当たっています。すべての必要が備えられて無事に再赴任できるようにお祈りください。

■教育局

〈とにキャン〉

◇第9回全国中高生とにキャン

日程・9日（火）～12日（金）

会場・聖山高原キャンプ場

テーマ・「GACHI　ガチ」

〈ユースステーション〉

◇ユースステーション全国大会

日程・15日（月）～18日（木）

会場・奥多摩福音の家

テーマ「迷ったっていいじゃない！」

講師・小坂嘉嗣師（日本宣教会・狭山キリスト教会牧師）

〈信徒伝道者養成課程スクーリング〉

10月9日（日）～11日（火）に、神学院を会場として信徒伝道者養成課程のスクーリングが開かれます。今年は試験的に日曜日夜から祝日をはさんで火曜日午前までの日程となります。ご希望の方は参加申込みをお願い致します。

なお、今回は二日目（祝）午後の聖書講義（河村従彦師）と夜の聖会（林正弘師）は一般公開となります（一般公開のみの参加申込みは不要です）。詳しくは教団HPもしくは別送の参加要項を参照してください。

▽eラーニング開講のお知らせ

「ガラテヤ人への手紙講解――福音の真理を捉え、今の時代を生きるために――」（8週間）

岩上敬人先生（10月16日開講）

＊9月4日から申込開始です。

＊Web申込フォームからどうぞ。

■聖宣神学院

▽夏期実習は前期8月1日（月）～28日（日）、後期8月29日（月）～9月25日（日）の8週間です。任地は次の通りです。

戸塚雅昭兄　高津・高田

松尾信子姉　大阪伝法・豊田／名古屋東

大塚千穂子姉　豊田／名古屋東・別府

金成（かなり）星美姉　東京FM桜ヶ丘・豊田／名古屋東

大谷（おおや）のぞみ姉　豊田／名古屋東・名古屋

高木暁子（さとこ）姉　聖宣神学院／聖宣神学院

▽神学院祈り会は8月9日（火）・午後6時から、メッセージは田中進先生です。

▽秋の入学審査は9月5日（月）、願書提出期限は8月22日（月）です。志願者の方はお間違いのないように願書を提出してください。

▽オープン・キャンパスのご案内

10月21日（金）午後～22日（土）昼。教会に案内チラシをお届けしました。部分参加も歓迎です。教会を通してお申し込みください。

▽信徒土曜講座の秋学期はまだ申込を受け付けています。

▽神学院後援会は、第一回発起人会を行い、まもなく運営の中心となる推進委員会を構成します。お祈り・ご協力をお願い致します。

「学苑だより」にも掲載した主旨（案）も合わせてお読みください。

■出版事業部

▽『恵みの風景――みことばに「私」を問う』が発行されました。価格は1200円（税別）です。

▽9月8日に出版事業部会が行われますので、出版に関するご意見、ご要望がありましたら、書面にてお知らせください。

消息報告

▼暑さの厳しい折、ご高齢の先生方の健康が支えられるようお祈りください。

▼沼津教会（小島聡牧師）では、腐食が深刻な屋根やベランダその他の修繕工事を行われました。取得した隣接地に新会堂を建てるために取り組んでおられます。

▼山口教会（平瀬聡樹牧師）では10月の完成を目指して新会堂の工事が進められています。

▼富山教会（高桑信雄牧師）では12月の完成を目指して新会堂の工事に取り組まれます。

発行人　藤本　満　編集者　北田直人
発行所　東京都千代田区神田駿河台二―一　印刷所　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇　OCCビル　イムマヌエル綜合伝道団本部
新生宣教団　定価　一部一〇〇円（税込）
郵便振替　00110・7・133609